



平成 18 年 7 月 24 日

各 位

株式会社 アプリックス

東京都新宿区西早稲田二丁目 18 番 18 号
(コード番号：3727 東証マザーズ)
代表者 代表取締役社長 関野 正明
問合せ先 最高財務責任者 山科 拓
電話番号 03-5286-8436 (コーポレートコミュニケーション室)

平成 18 年 12 月期中間期 単体および連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 18 年 2 月 20 日の平成 17 年 12 月期決算発表時に公表した平成 18 年 12 月期（平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日）中間期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 12 月期中間業績予想の修正（平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,600	△1,400	△1,600
今回修正予想 (B)	3,400	△1,800	△2,000
増減額 (B-A)	800	△400	△400
増減率 (%)	30.8	△28.6	△25.0
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 12 月期中間)	1,828	△1,769	△1,735

(2) 単体

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,300	450	250
今回修正予想 (B)	3,342	539	267
増減額 (B-A)	1,042	89	17
増減率 (%)	45.3	19.8	6.8
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 12 月期中間)	1,670	108	152

3. 修正の理由

単体業績につきましては、製品売上高において、製品の出荷が好調なことに加え、一部の契約に関して、期初の業績予想においては通年にわたって按分的に計上されるものとして予想していたロイヤリティ売上高の大半が第2四半期中に一括計上されたことにより、期初の当社予想を上回る見通しとなりました。一方、費用面では新規のソフトウェア開発に関して、当初、資産に計上することを想定していた開発費の一部を費用に認識したこと、不採算案件が発生したことなどにより、第1四半期においてソフトウェア開発費ならびに研究開発費が一時的に増加しております。これらに加え、人件費の増加などもあり、中間期の営業費用は期初の計画に対して約10億円上回る結果となりました。これらの状況を踏まえ、中間期業績予想値を上記のとおり修正いたしました。

連結業績につきましては、売上高では、単体の売上高が計画を上回ったものの、海外子会社の売上は流動的な市場環境を背景に予想に対し未達成となる模様であり、上記の単体における約10億円の営業費用の増加の影響ならびに海外子会社における人件費の増加から、損益面においては当初の計画を下回る見通しとなっております。これらの状況を踏まえ、中間期業績予想値を上記のとおり修正いたしました。

4. 平成17年12月期単体通期業績について

平成18年12月期単体通期業績については、平成18年2月20日に公表した業績予想を現時点では修正いたしません。

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
単体通期業績予想	5,400	1,750	950

5. 平成18年12月期連結通期業績について

平成18年12月期連結通期業績についても、平成18年2月20日に公表した業績予想を現時点では修正いたしません。

	売上高	経常利益	当期純利益
連結通期業績予想	6,300	0	△800

なお、平成18年12月期中間期の決算発表は、平成18年8月15日(火)の予定です。

以 上